

アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取県小教研音楽部会西部支部

テーマ 『思いや気持ちをこめてのびのびと歌い豊かに表現する子どもの育成』
開催日時 平成27年10月16日(金) 13:20～17:00
実施場所 南部町立西伯小学校
指導・助言者 全日本歌唱教育研究会 理事 前田美子先生

指導の実際

①【各校の課題について指導】

- ・発表会練習のため同じ曲を長期間歌っていると、飽きてきて地声になりやすい。身体を動かしながら歌ったり、少人数ずつで歌ったりする。
- ・3拍子を体感させるのにリズム打ち遊びを取り入れると楽しくなり、笑顔になって声もよく出る。相手がいるので必然的に活動に入っていくことができる。
- ・下降のフレーズは声が下がりやすいので子どもたちに意識させる。
- ・音程がとりにくい子は音をぐんと下げる。
- ・自信がなくて声を出さない子には「走らないとどんどん遅くなるように、声も出さないと出なくなる」ことを伝える。
- ・ゲーム的活動を入れると賑やかになるが「静かにしなさい」と言わずに集中させるよう切り替えを工夫する。
- ・2部合唱では上下のパートを同じ人数でなく下を多めにしたり、曲の部分部分で増減したりする。
- ・肩に力が入る児童は椅子の上に立って歌うと腰に力が入り、肩の力が抜ける。
- ・椅子に座って歌うときも両手や両足を広げると腹筋を使うことができる。



②【児童に対する歌唱指導】

2年生「まあるくなろう」 5年生「小さな鳥の小さな夢」

- ・楽しい→悲しい、大きな輪→小さな輪 など反対の意味の言葉で歌ってみると、どのような表現がそれぞれのフレーズでふさわしいかわかりやすい。
- ・「笑ってみよう」の歌詞の後に「わっはっは！」や、最後に「やあ！」など調子を良くするような言葉をはさむと子どもたちが笑顔になり歌声が明るくなる。
- ・誕生日月の人を立てて歌ったり、対教師と交互唱してみたり、時には一人で歌わせてみるなど、授業に緊張感やメリハリを持たせると児童が集中する。
- ・肩を上げ下げし、腹筋に力を入れ、胸を開いて舌を出す体操をすることで子どもの表情がほぐれ、基本姿勢も整えられる。
- ・息がしっかり入るようにロングブレスを教える。若干かかとを浮かせるように足の裏をつけ8拍で息を出し、2拍止めて吸う。

◎歌う技術、心を育て学級経営にもつながる指導をして頂き有意義な研修であった。